



Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンスハードウェア設置ガイド

初版：2021年3月26日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章

Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンスの概要 1

Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンス 1

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスハードウェアの仕様 2

外部機能 3

ステータス LED およびボタン 6

 前面パネルの LED 6

 内部診断 LED 9

サービス可能なコンポーネントの場所 10

サーバー機能の概要 12

第 2 章

アプライアンスの設置 17

設置に関する警告およびガイドライン 17

ラックに関する要件 19

ラックへのアプライアンスの設置 19

 ケーブル マネジメント アームの取り付け (任意) 23

 ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け (任意) 24

初期設定 25

 設定時のアプライアンスへのローカル接続 26

 設定時のアプライアンスへのリモート接続 27

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ 29

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新 31

システム BIOS へのアクセス 31

スマートアクセス (シリアル) 32

HDD/SSD 交換後の RAID コントローラの設定 32

SED のドライブセキュリティの有効化 34

ローカルキー管理 34

リモート キー管理 34

第 3 章

サーバの仕様 37

サーバの仕様 37

物理仕様 37

環境仕様 38

電力仕様 39

1050 W V2 DC 電源 39

1050 W AC 電源装置 40

電源コードの仕様 41



第 1 章

Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンスの概要

- [Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンス \(1 ページ\)](#)
- [Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスハードウェアの仕様 \(2 ページ\)](#)
- [外部機能 \(3 ページ\)](#)
- [ステータス LED およびボタン \(6 ページ\)](#)
- [サービス可能なコンポーネントの場所 \(10 ページ\)](#)
- [サーバー機能の概要 \(12 ページ\)](#)

Cisco Secure Network Server 3700 シリーズ アプライアンス

Cisco Secure Network Server (SNS) 3700 シリーズ アプライアンスは、Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) C220 ラックサーバーに基づいており、特に Cisco ISE をサポートするように構成されています。Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスは、幅広いワークロードで高いパフォーマンスと効率性を提供するように設計されています。

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスには次のモデルがあります。

- Cisco SNS 3715 (SNS-3715-K9)
- Cisco SNS 3755 (SNS-3755-K9)
- Cisco SNS 3795 (SNS-3795-K9)

Cisco SNS 3715 アプライアンスは、小規模な展開向けに設計されています。Cisco SNS 3755 および Cisco SNS 3795 アプライアンスには、ハードディスクや電源などの複数の冗長コンポーネントがあり、信頼性の高いシステム構成を必要とする大規模な展開に適しています。PAN および MnT ペルソナには Cisco SNS 3795 が推奨されます。

Cisco ISE リリース 3.1 パッチ 6 以降および Cisco ISE リリース 3.2 パッチ 2 以降のバージョンでは、Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスがサポートされます。

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスハードウェアの仕様

次の表では、Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスのハードウェア仕様について説明します。

表 1: Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスハードウェアの仕様

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンス	ハードウェア仕様
Cisco SNS-3715-K9	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS C220 M6 • Intel Xeon Silver 4310 CPU 2.10 GHz • 12 CPU コア、24 スレッド • 32 GB RAM • 600 GB HDD X 1、800 GB SSD X 1、または 960 GB SED X 1 • [RAID-0] • 10GBase-T x 2 10GE SFP x 4 • 物理的仕様、環境仕様、および電源仕様については、次を参照してください。 サーバの仕様 (37 ページ)
Cisco SNS-3755-K9	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS C220 M6 • Intel Xeon Silver 4316 CPU 2.30 GHz • 20 CPU コア、40 スレッド • 96 GB RAM • 600 GB HDD X 4、800 GB SSD X 4、または 960 GB SED X 4 • RAID 10 • 10GBase-T x 2 10GE SFP x 4 • 物理的仕様、環境仕様、および電源仕様については、次を参照してください。 サーバの仕様 (37 ページ)

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンス	ハードウェア仕様
Cisco SNS-3795-K9	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS C220 M6 • Intel Xeon Silver 4316 CPU 2.30 GHz • 20 CPU コア、40 スレッド • 256 GB RAM • 600 GB HDD X 8、800 GB SSD X 8、または 960 GB SED X 8 • RAID 10 • 10GBase-T x 2 10GE SFP x 4 • 物理的仕様、環境仕様、および電源仕様については、次を参照してください。 サーバの仕様 (37 ページ)



- (注)
- Cisco SNS 3700 シリーズアプライアンスに、メモリ、プロセッサ、ハードディスクなどのハードウェアリソースを追加することはできません。
 - SAS/SATA ハードドライブと SAS/SATA SSD を混在させることはできません。SAS/SATA ハードドライブまたは SAS/SATA SSD のいずれかを使用する必要があります。
 - SSD は、ディスクの読み取り/書き込み操作、他の ISE 操作（起動、インストール、データベースのアップグレードなど）、およびバックアップ、レポート生成などの集約型タスクのパフォーマンスを向上させます。

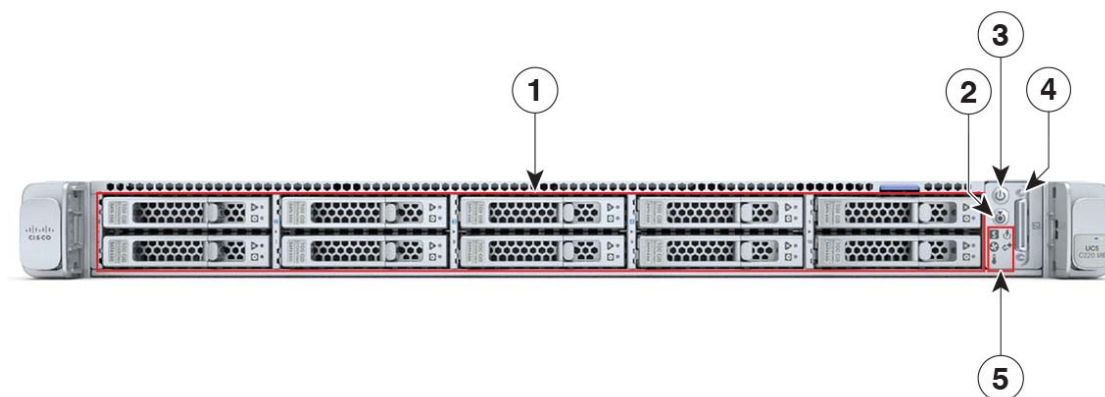
外部機能

この項では、Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの外部機能について説明します。

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの前面パネルの機能

次の図は、Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの前面パネルの機能を示しています。

図 1: Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの前面パネル



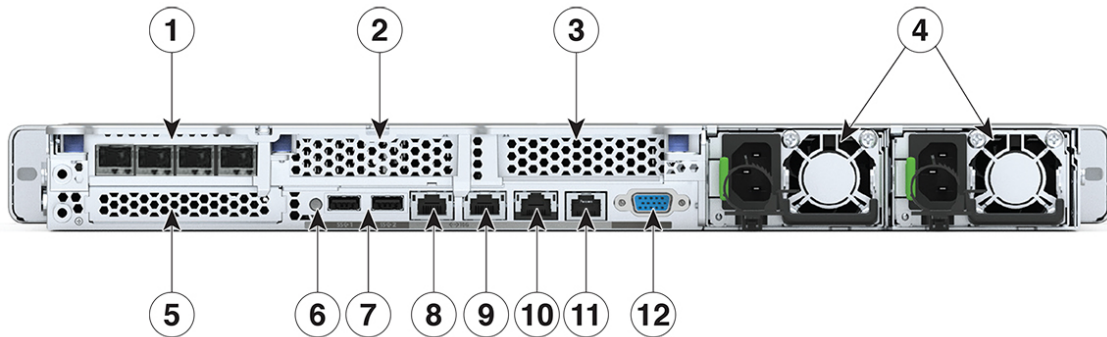
1	<p>ドライブベイ 1 ~ 10 は、シリアル接続 SCSI (SAS) および Serial Advanced Technology Attachment (SATA) ハードディスクドライブ (HDD) と SSD、および自己暗号化ドライブ (SED) をサポートします。</p> <p>オプションとして、ドライブベイ 1 ~ 4 には、最大 4 台の Non-Volatile Memory Express (NVMe) ドライブを格納できます。ドライブベイ 5 ~ 10 は SAS/SATA HDD、SSD、および SED に対応しています。</p> <p>NVMe ドライブは、デュアル CPU サーバーでのみサポートされます。</p>	2	<p>ユニット識別ボタンまたは LED</p>
3	<p>電源ボタンまたは電源ステータス LED</p>	4	<p>KVM コネクタ (1 つの DB-15 VGA コネクタ、1 つの DB-9 シリアルコネクタ、および 2 つの USB コネクタを備えた KVM ケーブルで使用)</p>

5	<p>システム LED クラスタ :</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファン ステータス LED • システム ステータス LED • 電源ユニットのステータス LED • ネットワーク リンク アクティビティ LED • 温度ステータス LED <p>LED の状態の定義については、前面パネルの LED (6 ページ) を参照してください。</p>		—
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	---

Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの背面パネルの機能

次の図は、Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの背面パネルの機能を示しています。

図 2: Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスの背面パネル



1	<p>ライザ 1 は SFP NIC カードをサポート</p> <p>次の Cisco ISE GigabitEthernet インターフェイスにマッピングされている 4 つのイーサネットポート</p> <ul style="list-style-type: none"> • GigabitEthernet 2 インターフェイス • GigabitEthernet 3 インターフェイス • GigabitEthernet 4 インターフェイス • GigabitEthernet 5 インターフェイス <p>(注) インターフェイスには左から右の順にラベルが付けられています。</p>	2	ライザー 2 のブランク パネル
3	ライザー 3 のブランク パネル	4	電源装置 (PSU)
5	モジュール型 LAN on Motherboard (mLOM)	6	システム識別ボタンまたは LED
7	USB 3.0 ポート (2 個)	8、9	<p>デュアル 1 Gb または 10 Gb イーサネットポート (LAN1 と LAN2) :</p> <ul style="list-style-type: none"> • LAN1 (Cisco ISE GigabitEthernet 0 インターフェイスにリンク) • LAN2 (Cisco ISE GigabitEthernet 1 インターフェイスにリンク) <p>(注) インターフェイスには左から右の順にラベルが付けられています。</p>
10	1 Gb イーサネット専用管理ポート	11	COM ポート (RJ45 コネクタ)
12	VGA ビデオ ポート (DB-15 コネクタ)		—

ステータス LED およびボタン

ここでは、LED の状態の解釈について説明します。

前面パネルの LED

次の図は、Cisco SNS 3700 シリーズアプライアンスの前面パネルの LED を示しています。

図 3: 前面パネル LED

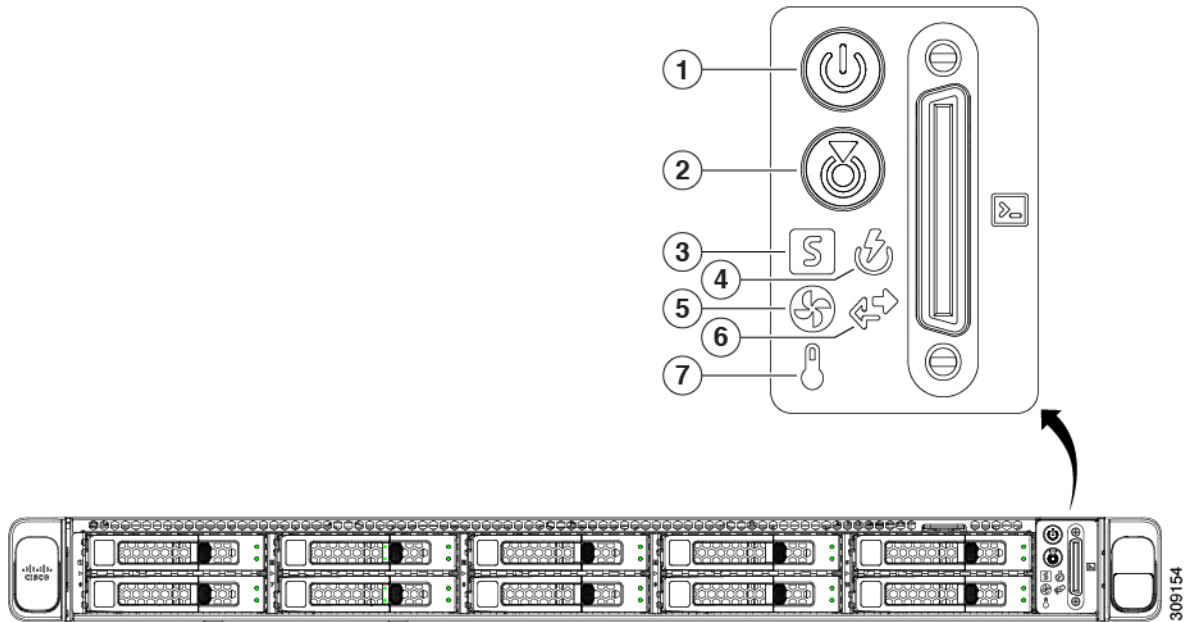






表 2: 前面パネル LED

	LED 名	状態
1	電源ボタンまたは LED ()	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：サーバーに AC 電力が供給されていません。 オレンジ：サーバーはスタンバイ電源モードです。Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。 緑：サーバーは主電源モードです。すべてのサーバコンポーネントに電力が供給されています。
2	ユニット識別	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：ユニット識別機能は使用されていません。 青の点滅：ユニット識別機能がアクティブになっています。

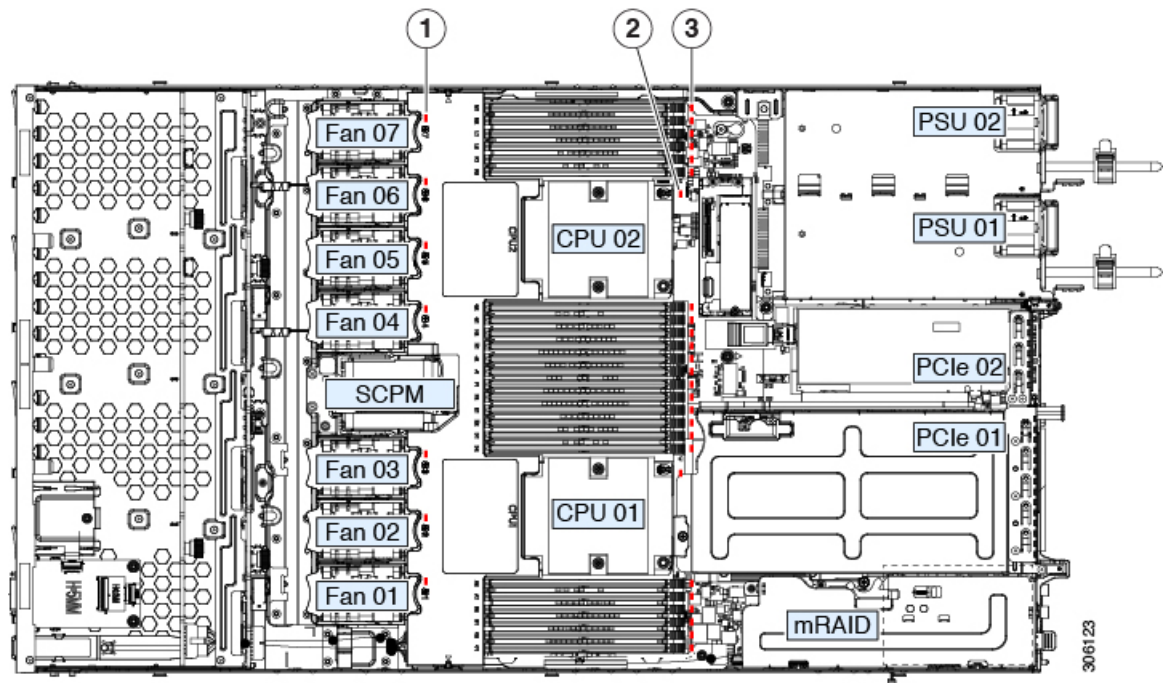
3	システムの正常性 ()	<ul style="list-style-type: none"> • 緑：サーバーは正常動作状態で稼働しています。 • 緑の点滅：サーバーはシステムの初期化とメモリチェックを実行しています。 • オレンジの点灯：サーバーは縮退運転状態にあります（軽度の障害）。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 電源装置の冗長性が失われている。 • CPU が一致しない。 • 少なくとも1つの CPU に障害が発生している。 • 少なくとも1つの DIMM に障害が発生している。 • RAID 構成内の少なくとも1台のドライブに障害が発生している。 • オレンジの点滅（2回）：システムボードで重度の障害が発生しています。 • オレンジの点滅（3回）：メモリ（DIMM）で重度の障害が発生しています。 • オレンジの点滅（4回）：CPU で重度の障害が発生しています。
4	電源ステータス ()	<ul style="list-style-type: none"> • 緑：すべての電源装置が正常に動作しています。 • オレンジの点灯：1台以上の電源装置が縮退運転状態にあります。 • オレンジの点滅：1台以上の電源装置が重大な障害発生状態にあります。
5	ファンスステータス ()	<ul style="list-style-type: none"> • 緑：すべてのファンモジュールが正常に動作中です。 • オレンジの点滅：1つ以上のファンモジュールが回復不能なしきい値を超えました。

6	ネットワークリンクアクティビティ (↔)	<ul style="list-style-type: none"> • 消灯：イーサネット LOM ポートリンクがアイドル状態です。 • 緑：1つ以上のイーサネット LOM ポートでリンクがアクティブになっていますが、アクティビティは存在しません。 • 緑の点滅：1つ以上のイーサネット LOM ポートでリンクがアクティブになっていて、アクティビティが存在します。
7	温度ステータス (🌡️)	<ul style="list-style-type: none"> • 緑：サーバーは正常温度で稼働中です。 • オレンジの点灯：1つ以上の温度センサーが重大なしきい値を超えました。 • オレンジの点滅：1つ以上の温度センサーが回復不能なしきい値を超えました。

内部診断 LED

サーバーには、CPU、DIMM、およびファンモジュールの内部障害 LED があります。

図 4: 内部診断 LED の場所

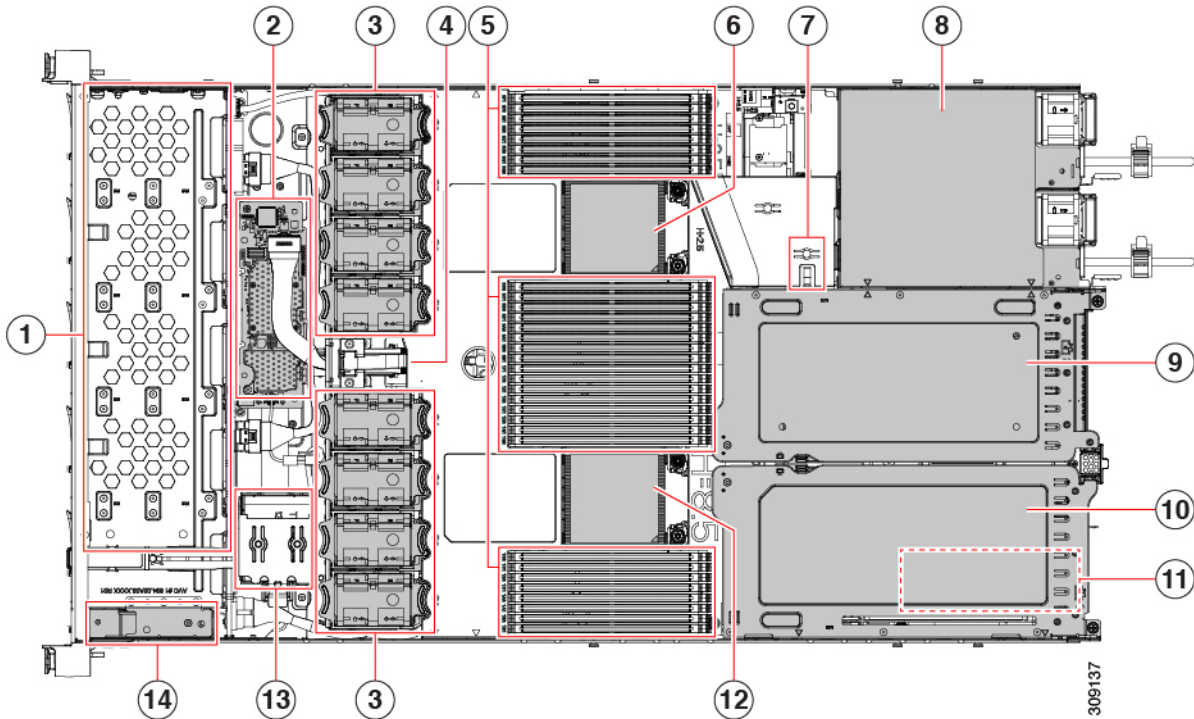


1	<p>ファンモジュール障害LED（マザーボード上の各ファンコネクタの後方に1つ）</p> <ul style="list-style-type: none"> • オレンジ：ファンに障害が発生しているか、しっかりと装着されていません。 • 緑：ファンは正常です。 	3	<p>DIMM 障害 LED（マザーボード上の各 DIMM ソケットの後方に1つ）</p> <p>これらの LED は、サーバがスタンバイ電源モードの場合にのみ動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オレンジ：DIMMに障害があります。 • 消灯：DIMM は正常です。
2	<p>CPU 障害 LED（マザーボード上の各 CPU ソケットの後方に1つ）</p> <p>これらの LED は、サーバがスタンバイ電源モードの場合にのみ動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オレンジ：CPUに障害があります。 • 消灯：CPU は正常です。 		—

サービス可能なコンポーネントの場所

この項では、現場で交換可能なコンポーネントとサービス関連アイテムの位置を示します。次の図に、上部カバーを外した状態のアプライアンスを示します。

図 5: サービス可能なコンポーネントの場所



1	フロントロードドライブベイ 1～10 は SAS/SATA ドライブをサポート	2	M6 モジュール RAID カードまたは SATA インターポーザカード
3	冷却ファン モジュール (8 個) 各ファンはホットスワップ可能	4	SuperCap モジュール マウント ブラケット この場所に取り付ける SuperCap モジュールにより、RAID 書き込みキャッシュがバックアップされます。
5	マザーボード上の DIMM ソケット、 合計 32 個 (CPU あたり 16 個) CPU とサーバーの側壁の間に 8 個の DIMM ソケットが配置され、2 つの CPU の間に 16 個の DIMM ソケットが 配置されます。	6	マザーボード CPU ソケット (CPU2)
7	M.2 モジュールコネクタ 最大 2 台の SATA M.2 SSD へのコネク タを備えたブート最適化 RAID コント ローラをサポート	8	電源装置 (PSU)

9	PCIe ライザスロット 2 フルハイト、フル幅の PCIe ライザーカード 1 枚に対応 フロントロード NVMe SSD (x8 レーン) 用の PCIe ケーブルコネクタが付属	10	PCIe ライザー スロット 1 : フルハイト、フル幅 (x16 レーン) PCIe ライザーカード 1 枚に対応
11	シャーシフロア (x16 PCIe レーン) 上のモジュラ LOM (mLOM) カードベイ mLOM カードベイは PCIe ライザスロット 1 の下にあります。	12	マザーボード CPU ソケット (CPU1)
13	前面パネル コントローラ ボード		—

サーバー機能の概要

次の表に、サーバ機能の概要を示します。

機能	説明
シャーシ	1ラックユニット (1RU) シャーシ
セントラルプロセッサ	最大 2 つの第 3 世代インテル Xeon プロセッサ
メモリ	登録済み DIMM (RDIMM)、DDR4 DIMM、3DS DIMM、および最大 3200 MHz まで負荷軽減 DIMM (LR DIMM) 用の 32 スロットインテル Optane パーシステントメモリ モジュール (PMEM) もサポートされています。
マルチビット エラー保護	マルチビットエラー保護をサポート
ビデオ	<p>Cisco Integrated Management Controller (Cisco IMC) は、Matrox G200e ビデオまたはグラフィックスコントローラを使用してビデオを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェア アクセラレーションを備えた内蔵 2D グラフィックスコア DDR3 メモリインターフェイスは最大 512 MB のアドレス可能メモリをサポート (デフォルトでは 8 MB がビデオメモリに割り当てられる) 最大 1920 X 1200 16bpp、60Hz のディスプレイ解像度をサポート 高速な内蔵 24 ビット RAMDAC 第 2 世代の速度で動作するシングル レーン PCI-Express ホスト インターフェイス

機能	説明
ベースボード管理	Cisco IMC ファームウェアを実行する BMC。 Cisco IMC 設定に応じて、1 Gb 専用管理ポート、1 Gb/10 Gb イーサネット LAN ポート、または、シスコ仮想インターフェイス カードを介して Cisco IMC にアクセスできます。
ネットワークおよび管理 I/O	背面パネル： <ul style="list-style-type: none"> • 1 Gb イーサネット専用管理ポート X1 (RJ-45 コネクタ) • 1 Gb/10 Gb BASE-T イーサネット LAN ポート X 2 (RJ-45 コネクタ) デュアル LAN ポートは、10 Gbps、1 Gbps、100 Mbps、または 10 Mbps をサポートできます。LAN ポートは、リンクパートナー機能に基づいて適切なリンク速度を自動ネゴシエートします。 <ul style="list-style-type: none"> • RS-232 シリアル ポート (RJ-45 コネクタ) X 1 • VGA ビデオ コネクタ ポート X1 (DB-15 コネクタ) • USB 3.0 ポート × 2 前面パネル： <ul style="list-style-type: none"> • KVM ブレークアウトケーブルとともに使用する前面パネルキーボード/ビデオ/マウス (KVM) コネクタ X 1。ブレークアウトケーブルには、USB 2.0 X 2、VGA X 1、DB-9 シリアルコネクタ X 1 を接続できます。
モジュラ LOM	背面パネルの追加接続用に、mLOM カードを追加するために使用できる専用ソケット (X 16 PCIe レーン) X1。オプションのハードウェア構成として、Cisco CNIC mLOM モジュールは 2 つの 100G QSFP+ ポートまたは 4 つの 25 Gbps イーサネットポートをサポートします。
電源	<ul style="list-style-type: none"> • 1050 W (AC) • 1050 W (DC)
ACPI	Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 4.0 標準規格をサポートします。
前面パネル	前面パネルにはステータスインジケータおよびコントロールボタンがあります。
冷却	ホットスワップ可能なファンモジュール (前面から背面への冷却用) X 8。
InfiniBand	このサーバの PCI スロットは、ファイバチャネル、イーサネット、およびその他の業界標準に加えて、HDR IB (200 Gbps) までの InfiniBand アーキテクチャをサポートします。

機能	説明
拡張スロット	<p>ハーフハイトライザスロット X 3 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライザ 1 (CPU 1 で制御) : x16 PCIe Gen4 スロット X 1、ハーフハイト、長さ 3/4 • ライザ 2 (CPU 1 で制御) : x16 PCIe Gen4 スロット X 1、ハーフハイト、長さ 3/4 • ライザ 3 (CPU 2 で制御) : x16 PCIe Gen4 スロット X 1、ハーフハイト、長さ 3/4 <p>フルハイトライザスロット X 2 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライザ 1 (CPU 1 で制御) : x16 PCIe Gen4 スロット X 1、フルハイト、長さ 3/4 • ライザ 2 (CPU 2 で制御) : x16 PCIe Gen4 スロット X 1、フルハイト、長さ 3/4
インターフェイス	<p>背面パネル :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 つの 1Gbase-T RJ-45 管理ポート • 2 つの 10Gbase-T LOM ポート • RS-232 シリアル ポート (RJ45 コネクタ) x 1 • DB15 VGA コネクタ x 1 • USB 3.0 ポートコネクタ x 2 • 各種のインターフェイス カードを搭載できるフレキシブル モジュール型 LAN on Motherboard (mLOM) スロット x 1 <p>前面パネル :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以下をサポートする KVM ブレークアウトケーブルのピンを提供する 1 つの KVM コンソールコネクタ。 <ul style="list-style-type: none"> • USB 2.0 コネクタ X 2 • VGA DB15 ビデオコネクタ X 1 • シリアルポート (RS232) RJ45 コネクタ X 1
組み込み管理プロセッサ	<p>Cisco IMC ファームウェアを実行するベースボード管理コントローラ (BMC) 。</p> <p>Cisco IMC の設定に応じて、1GE 管理専用ポート、1GE/10GE LOM ポート、または Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) を介して Cisco IMC にアクセスできます。</p>

機能	説明
ストレージコントローラ	<p>SATA インタポーザボード、4GB FBWC を備えた Cisco 12G SAS RAID コントローラ、または Cisco 12G SAS ホストバスアダプタ (HBA)。一度に使用できるのは1つだけです。</p> <p>Cisco 9500-8e 12G SAS HBA は、外部 JBOD 接続用に使用可能な PCIe ライザにプラグインできます。この HBA は、他のストレージコントローラの1つと同時に使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SATA インタポーザボード：最大 8 台の SATA 専用ドライブ (スロット 1～4 および 6～9) の Advanced Host Controller Interface (AHCI) をサポート • Cisco 12G RAID コントローラ <ul style="list-style-type: none"> • RAID サポート (RAID 0、1、5、6、10) および SRAID0 • 最大 10 台の前面ローディング小型フォームファクタ (SFF) ドライブをサポート • Cisco 12G SAS HBA <ul style="list-style-type: none"> • RAID はサポートされません • JBOD/パススルー モード サポート • 最大 10 台の SFF 前面ローディング SAS/SATA ドライブをサポート • Cisco 12G 9500-8e SAS HBA <ul style="list-style-type: none"> • RAID はサポートされません • 外部 JBOD 接続をサポート (最大 1024 台の SAS/SATA デバイスまたは 32 台の NVMe デバイスをサポート) • 適切な PCIe ライザスロットに接続 (最大 2 基をサポート)
モジュール型 LAN on Motherboard (mLOM) スロット	<p>マザーボードの mLOM 専用スロットには、次のカードを装着できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シスコの仮想インターフェイス カード (VIC) • クアッドポート Intel i350 1GbE RJ45 ネットワーク インターフェイス カード (NIC)



第 2 章

アプライアンスの設置

- [設置に関する警告およびガイドライン \(17 ページ\)](#)
- [ラックに関する要件 \(19 ページ\)](#)
- [ラックへのアプライアンスの設置 \(19 ページ\)](#)
- [初期設定 \(25 ページ\)](#)
- [Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(29 ページ\)](#)
- [BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新 \(31 ページ\)](#)
- [システム BIOS へのアクセス \(31 ページ\)](#)
- [スマート アクセス \(シリアル\) \(32 ページ\)](#)
- [HDD/SSD 交換後の RAID コントローラの設定 \(32 ページ\)](#)
- [SED のドライブセキュリティの有効化 \(34 ページ\)](#)

設置に関する警告およびガイドライン



警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071



警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35°C (95°F) を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047



警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



警告 この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。

ステートメント 1005



警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

ステートメント 1074



警告 この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味します。

ステートメント 1017



注意 適切なエアフローを確保するためには、レールキットを使用してアプライアンスを取り付けてください。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバーの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が増えたりすることがあります。サーバーをラックに取り付ける際には、サーバー間に必要な最小の間隔がレールによって提供されるので、レールキットにサーバーをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバー間の間隔を余分にとる必要はありません。

アプライアンスを設置するときは、次の注意事項に従ってください。

- アプライアンス周辺に、スムーズな作業や適切なエアフローを確保できるだけの十分なスペースがあることを確認します。
- 空調が、[環境仕様 \(38 ページ\)](#) に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、[ラックに関する要件 \(19 ページ\)](#) に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[電力仕様 \(39 ページ\)](#) に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置 (UPS) を使用してください。

ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準 48.3 cm (19 インチ) 幅 4 支柱ラック、ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサルピッチに適合するマウント支柱付き。
- 付属のシスコ製スライドレールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm (0.38 インチ) の正方形、7.1 mm (0.28 インチ) の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバーごとの縦方向の最小ラックスペースは、1 ラックユニット (RU)、つまり 44.45 mm (1.75 インチ) である必要があります。

ラックの設置に必要な工具

このアプライアンス用にシスコが販売しているスライドレールは、取り付けに工具が必要ありません。

スライドレールおよびケーブル マネジメント アームの寸法

アプライアンスのスライドレールの調整範囲は 610 ~ 914 mm (24 ~ 36 インチ) です。

オプションのケーブル マネジメント アーム (CMA) を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- サーバーの背面から CMA の背面までの距離は、137.4 mm (5.4 インチ) 追加されます。
- CMA を含むサーバーの全長は 35.2 インチ (894 mm) です。

ラックへのアプライアンスの設置

ここでは、シスコが販売するサポートレールキットを使用して、アプライアンスをラックに設置する方法について説明します。



警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

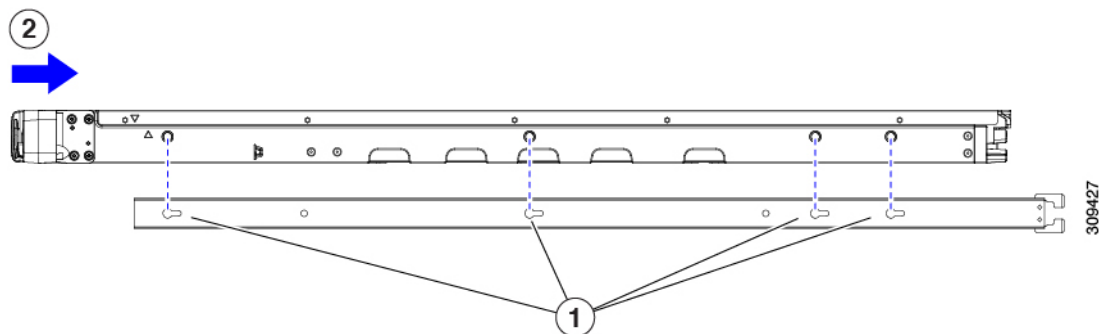
ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

ステップ1 アプライアンスの側面に内側レールを装着します。

- a) レール内の3つのキー付きスロットがアプライアンス側面の3個のペグの位置に合うように、内側レールをアプライアンスの一方の側の位置に合わせます。
- b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。
- c) 2つ目の内側レールをアプライアンスの反対側に取り付けます。

図 6: アプライアンスの側面への内側レールの取り付け

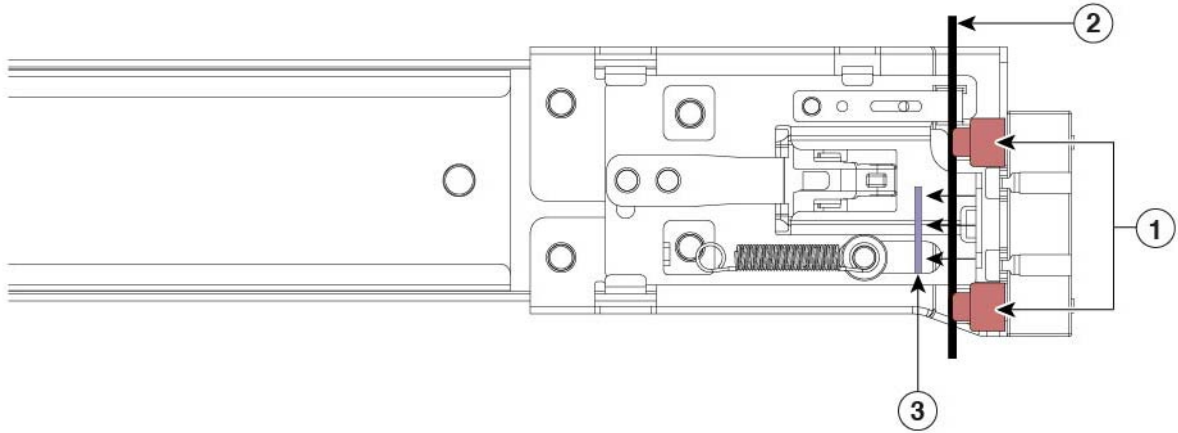


1	レールのキー付きスロット	2	アプライアンスの前面をキー付きスロットにスライドさせる
---	--------------	---	-----------------------------

ステップ2 両方のスライドレール部品で前面の固定プレートを開きます。スライドレール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 7: 前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	3	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートの間のラック支柱	-	

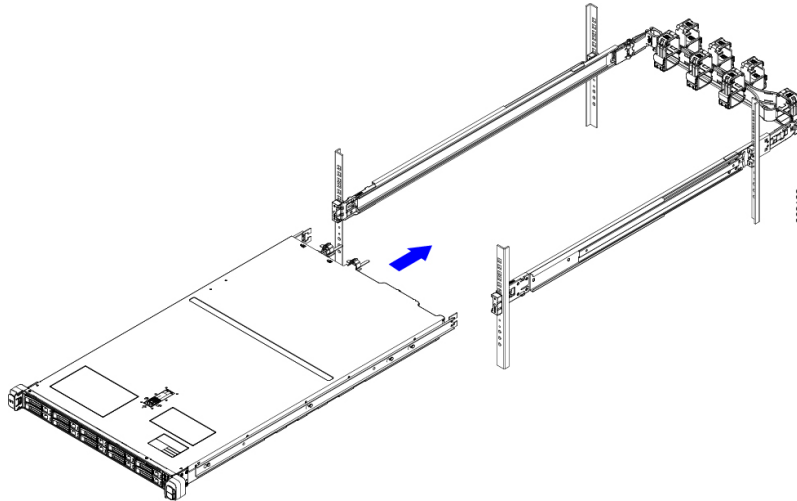
ステップ 3 外側のスライドレールをラックに取り付けます。

- a) 片側のスライドレール部品を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。
スライドレールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。
(注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。
- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。
- c) 「Push」のマークが付いた固定プレートのリリースボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d) スライドレールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みます。
背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
- e) 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライドレール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- f) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。

ステップ 4 アプライアンスをスライドレールに装着します。

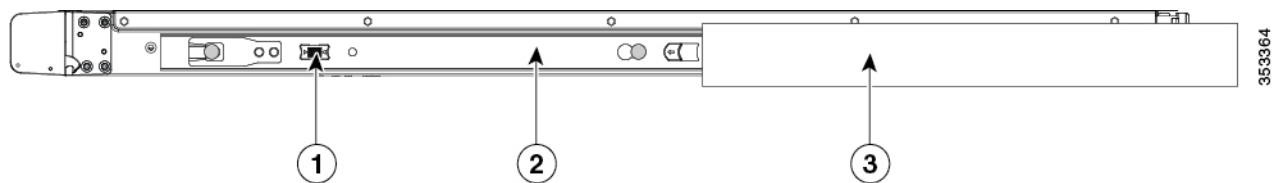
注意 このアプライアンスは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で 27 kg (60 ポンド) の重量になります。アプライアンスを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を 1人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

- a) アプライアンスの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に合わせます。
- b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライドレールに押し込みます。



- c) 両方の内側レールで内側レールリリースクリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラムラッチがラック支柱に収まるまで、アプライアンスをラックに押し込みます。

図 8: 内側レールリリースクリップ



1	内側レール リリース クリップ	3	ラック支柱に装着されている外側スライドレール
2	アプライアンスに装着され、外側のスライドレールに挿入されている内側レール	-	

ステップ 5 (任意) スライドレールに付属の2本のネジを使用して、アプライアンスをさらに確実にラックに固定します。アプライアンスを取り付けたラックを移動する場合は、この手順を実行します。

アプライアンスをスライドレールに完全に押し込んだ状態で、アプライアンス前面のヒンジ付きスラムラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、アプライアンスが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラムラッチについても行ってください。

ステップ 6 (任意) 該当する場合は、次の手順を実行します。

- a) ケーブルマネジメントアームを取り付けます。ケーブルマネジメントアームの取り付け (任意) (23 ページ) またはケーブルマネジメントアームを逆に取り付け (任意) (24 ページ) を参照してください。
- b) ロックベゼルを取り付けます。

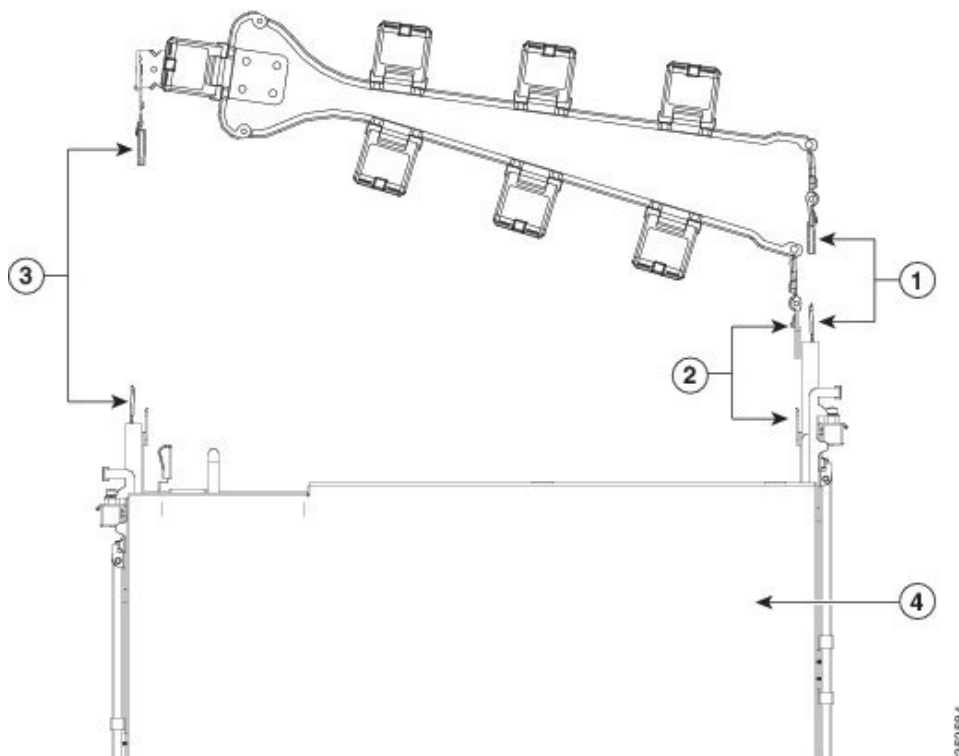
ケーブル マネジメント アームの取り付け (任意)



(注) ケーブルマネジメントアーム (CMA) は、左右を逆にして取り付けることができます。CMA を逆に取り付けるには、取り付ける前に [ケーブルマネジメントアームを逆に取り付け \(任意\) \(24 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 アプライアンスをラックに完全に押し込んだ状態で、アプライアンスから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支柱に装着された固定スライドレールの終端にスライドさせます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

図 9: スライドレール後端への CMA の取り付け



ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け（任意）

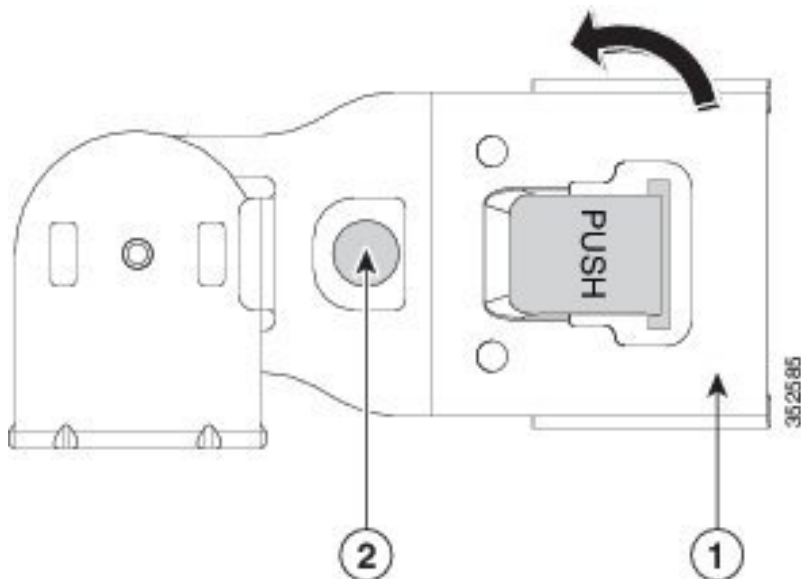
1	アプライアンスから最も離れたアームの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。	3	幅調整スライダの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。
2	アプライアンスに最も近いアームの CMA タブは、アプライアンスに装着された内側のスライドレールの終端に取り付けます。	4	アプライアンス背面

- ステップ 2 アプライアンスに最も近い CMA タブを、アプライアンスに装着された内側レールの終端にスライドさせます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 3 CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを、ラックの幅まで引き出します。
- ステップ 4 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライドレールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 5 各プラスチック製ケーブルガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブルガイドを通してケーブルを配線します。

ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け（任意）

- ステップ 1 CMA アセンブリ全体を、左から右へ 180 度回転させます。プラスチック製ケーブルガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- ステップ 2 アプライアンスの背面を向くように、CMA アームの終端でタブを反転させます。
- ステップ 3 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、アプライアンスの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 10: CMA の反転



1	幅調整スライダの終端の CMA タブ	2	タブの外側の金属ボタン
---	--------------------	---	-------------

初期設定



(注) この項では、初期設定のためにシステムに接続する方法について説明します。

アプライアンスのデフォルト設定

アプライアンスは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは *Shared LOM EXT* です。

Shared LOMEXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネットポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(29 ページ\)](#) の説明に従い、アプライアンスに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。
- DHCP は有効になっています。

- IPv4 は有効です。

接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の 2 つの方法があります。

- ローカル設定：キーボードとモニターをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVM ケーブル、またはアプライアンスの背面にあるポートを使用できます。
- リモート設定：専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバーが存在する必要があります。このサーバーノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバーにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセット タグにあるラベルに印字されています。このサーバー ノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のもので。

設定時のアプライアンスへのローカル接続

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- USB キーボード
- サポートされている Cisco KVM ケーブル、または USB ケーブルと VGA DB-15 ケーブル

ステップ 1 電源コードをアプライアンスの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブートアップ時には、アプライアンスが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバーはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニターをアプライアンスに接続します。

- オプションの KVM ケーブルを前面パネルの KVM コネクタに接続します。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。
- USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します。

ステップ3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

- a) 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、アプライアンスを起動します。
- b) ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。

(注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最小 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザー名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)
 - 小文字の英字 (a ~ z)
 - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
 - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (29 ページ) に進みます。

設定時のアプライアンスへのリモート接続

この手順には、次の機器が必要です。

- 管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバーが存在する必要があります。このサーバー ノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバーにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセット タグにあるラベルに印字されています。このサーバー ノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ステップ1 電源コードをアプライアンスの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブートアップ時には、アプライアンスが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバーはスタンバイ電源モードです。

ステップ2 管理イーサネット ケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます。

ステップ3 事前設定された DHCP サーバーで、サーバー ノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。

ステップ4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバー ノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。

(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

ステップ5 Cisco IMC サーバーの [Summary] ウィンドウで、[Launch KVM Console] をクリックします。

別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。

ステップ6 Cisco IMC の [Summary] ウィンドウで、[Power Cycle Server] をクリックします。

システムがリブートします。

ステップ7 KVM コンソール ウィンドウを選択します。

(注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウである必要があります。

ステップ8 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。

(注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開くと、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最小 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザー名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)
 - 小文字の英字 (a ~ z)
 - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
 - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ9 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (29 ページ) に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。



- (注) Cisco ISE ダウンロードサイトから入手した Cisco IMC ファームウェアのバージョン (SNS ハードウェアアプライアンスでの使用が認定されたバージョン) を使用する必要があります。UCS 用の Cisco IMC のバージョンには互換性がありません。Cisco IMC の新しいバージョンは、UCS 用に作成後、SNS ハードウェアアプライアンス用に作成されています。

ステップ 1 NIC モードを設定して、サーバー管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。

- [Shared LOMEXT] (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の共有 LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方が有効です。このオプションを選択した場合は、次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの [アクティブ-アクティブ (Active-Active)] を選択する必要があります。
- [Shared LOM] : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネットポートを使用します。このオプションを選択した場合は、次のステップで、NIC 冗長性設定に [アクティブ-アクティブ (Active-Active)] または [アクティブ-スタンバイ (Active-standby)] を選択する必要があります。
- [Dedicated] : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。このオプションを選択した場合は、次のステップで、NIC 冗長性設定に [なし (None)] を選択する必要があります。
- [Cisco Card] : Cisco IMC へのアクセスに仮想インターフェイスカード (VIC) のポートを使用します。このオプションを選択した場合は、次のステップで、NIC 冗長性設定に [アクティブ-アクティブ (Active-Active)] または [アクティブ-スタンバイ (Active-standby)] を選択する必要があります。
- [VIC Slot] : Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。ライザー 1、ライザー 2、または Flex-LOM (mLOM スロット) を選択できます。
 - [Riser1] を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Riser2] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
 - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。

ステップ 2 NIC 冗長性について、次のいずれかのオプションを選択します。

- [None] : イーサネットポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- [Active-standby] : アクティブなイーサネットポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。共有 LOM モードと Cisco カードモードでは、[アクティブ-スタンバイ (Active-standby)] または [アクティブ-アクティブ (Active-active)] の設定を使用できます。
- [Active-active] (デフォルト) : すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。共有 LOM 拡張モードを選択した場合は、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。共有 LOM モードと Cisco カードモードでは、[アクティブ-スタンバイ (Active-standby)] または [アクティブ-アクティブ (Active-active)] の設定を使用できます。

ステップ 3 ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。

(注) DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバーにこのサーバーの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

スタティック IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- [Cisco IMC IP address] : IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- [Gateway] : IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン 2 つ) を入力して none として設定できます。
- [Preferred DNS Server Address] : IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力して none として設定できます。

ステップ 4 (任意) VLAN の設定を構成します。

ステップ 5 (任意) サーバーのホスト名を設定します。

ステップ 6 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。

ステップ 7 (任意) [ファクトリデフォルト (Factory Default)] チェックボックスをオンにすると、サーバーは出荷時の初期状態に戻ります。

ステップ 8 (任意) デフォルトのユーザー パスワードを設定します。

(注) サーバーのデフォルトのユーザー名は *admin* です。デフォルトパスワードは *password* です。

ステップ 9 (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定します。

(注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバーが接続されているスイッチポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックスモードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定する必要があります。

ステップ 10 (任意) ポートプロファイルとポート名をリセットします。

ステップ 11 F5 を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバーを再起動します。

ステップ 12 F10 を押して設定を保存し、サーバーを再起動します。

(注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新



注意 BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも対応するバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバーが起動しません。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるよう支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバーには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェアイメージと共にリリース ノートを提供しています。

Cisco IMC の GUI または CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC ファームウェアと BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

システム BIOS へのアクセス

ステップ 1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。

(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

ステップ 2 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

ステップ 3 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。

ステップ 4 Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

ステップ 5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

ステップ 6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します（または、F10 を押します）。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

スマートアクセス（シリアル）

このサーバーは、スマートアクセス（シリアル）機能をサポートしています。この機能により、ホストのシリアルと Cisco IMC CLI を切り替えることができます。

- この機能には、次の要件があります。
 - サーバーの背面パネルの RJ-45 シリアルコネクタ、または前面パネルの KVM コンソールコネクタで DB-9 接続（KVM ケーブルを使用する場合）を使用できるシリアルケーブル接続。
 - サーバーの BIOS でコンソールリダイレクションを有効にする必要があります。
 - 端末タイプは、VT100+ または VTUFT8 に設定する必要があります。
 - Serial over LAN（SOL）を無効にする必要があります。
- ホストのシリアルから Cisco IMC CLI に切り替えるには、Esc キーを押した状態で 9 キーを押します。
接続を認証するために Cisco IMC クレデンシャルを入力する必要があります。
- Cisco IMC CLI からホストのシリアルに切り替えるには、Esc キーを押した状態で 8 キーを押します。



(注) Serial over LAN（SoL）機能が有効になっている場合は、Cisco IMC CLI に切り替えることができません。

- セッションが作成されると、CLI または Web GUI に `serial` という名前が表示されます。

HDD/SSD 交換後の RAID コントローラの設定

HDD または SSD の交換後に RAID コントローラカードを設定する場合は、次の手順を実行します。

ステップ 1 既存の HDD または SSD の交換：

- a) Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスにログインします。
- b) 左上隅にある [Menu] アイコンをクリックします。
- c) [Storage] > [Cisco RAID Controller] > [Controller Info] の順に選択します。
- d) [Clear Boot Drive] をクリックします。
- e) [OK] をクリックして、ブートドライブをクリアします。
- f) [Virtual Drive Info] をクリックします。

- g) [Virtual Drives] ウィンドウで仮想ドライブを選択し、[Delete Virtual Drive] をクリックします。
- h) [Physical Drive Info] をクリックします。
- i) [Physical Drives] ウィンドウで物理ドライブを選択し、[Prepare for Removal] をクリックします。

(注) ドライブを削除すると、Cisco ISE がアンインストールされます。HDD または SSD を交換したら、Cisco ISE を再インストールする必要があります。

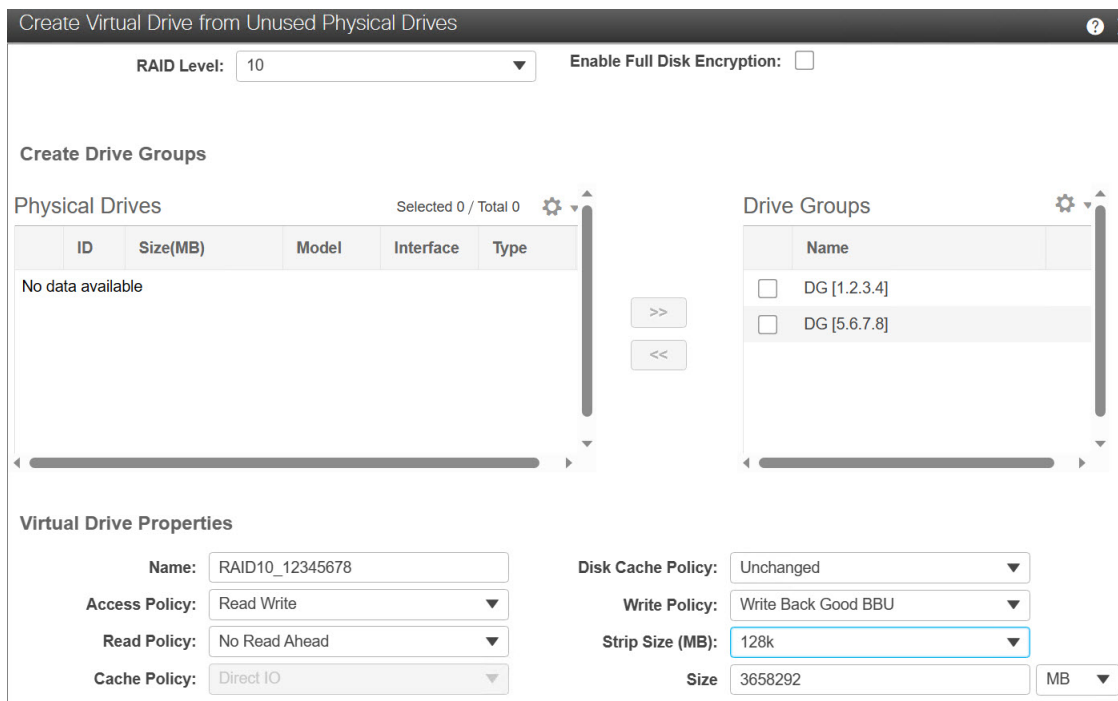
ステップ2 RAID コントローラの設定 :

- a) Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスにログインします。
- b) 左上隅にある [Menu] アイコンをクリックします。
- c) [Storage] > [Cisco RAID Controller] > [Controller Info] の順に選択します。
- d) [Create Virtual Drive from Unused Physical Drives] をクリックします。

(注) ドライブを挿入すると、Just a Bunch Of Disks (JBOD) モードでドライブが構成されているように表示される場合があります。ドライブを仮想ディスクに追加する前に、ドライブ構成を解除する必要があります。

- e) [RAID Level] ドロップダウンリストから、SNS 3755 および SNS 3795 の場合は [RAID 10] を選択し、SNS 3715 の場合は [RAID 0] を選択します。
- f) [Create Drive Groups] セクションでグループ化するドライブを選択し、選択したドライブを [Drive Groups] ペインに移動します。要件に基づいてさまざまなグループを作成できます。
- g) [Virtual Drive Properties] セクションの [Write Policy] ドロップダウンリストで、[Write Back Good BBU] を選択します。

図 11 : Virtual Drive Properties



- h) [OK] をクリックします。
[Virtual Drive Info] タブで、RAID 構成が成功したかどうかを確認できます。
- i) 新しく交換した HDD または SSD に Cisco ISE をインストールします。

詳細については、[Cisco UCS Server Configuration Utility ユーザーガイド \[英語\]](#) の「Configuring RAID Levels」の章を参照してください。

SED のドライブセキュリティの有効化

SED のローカルキー管理やリモートキー管理を有効にできます。

ローカルキー管理

SED のローカルキー管理を有効にするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Cisco SNS 3700 シリーズ アプライアンスにログインします。
- ステップ 2 左上隅にある [Menu] アイコンをクリックします。
- ステップ 3 [Storage] > [Cisco 12G SAS RAID Controller] > [Controller Info] の順に選択します。
- ステップ 4 [Enable Drive Security] をクリックします。
- ステップ 5 [Local Key Management] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 6 セキュリティ キーを入力します。
- ステップ 7 [Save] をクリックします。
- ステップ 8 [Virtual Drive Info] をクリックします。
- ステップ 9 [Virtual Drives] ウィンドウで仮想ドライブを選択し、[Secure Virtual Drive] をクリックします。

ドライブセキュリティが有効になっているドライブの [Virtual Drive Number] 列にロックアイコンが表示されます。

リモート キー管理

SED のリモートキー管理を有効にするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 左上隅にある [Menu] アイコンをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] > [Security Management] > [Secure Key Management] の順に選択します。
- ステップ 3 KPMI (暗号化ドライブのキー管理プロトコル) サーバーの詳細を入力します。
- ステップ 4 ルート CA 証明書、クライアント証明書、およびクライアント秘密キー証明書を割り当てます。

- ステップ 5 [Enable Secure Key Management] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [Storage] > [Cisco 12G SAS RAID Controller] > [Controller Info] の順に選択します。
- ステップ 7 [Enable Drive Security] をクリックします。
- ステップ 8 [Remote Key Management] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 9 [Save] をクリックします。
- ステップ 10 [Virtual Drive Info] をクリックします。
- ステップ 11 [Virtual Drives] ウィンドウで仮想ドライブを選択し、[Secure Virtual Drive] をクリックします。

ドライブセキュリティが有効になっているドライブの [Virtual Drive Number] 列にロックアイコンが表示されます。



第 3 章

サーバの仕様

- [サーバの仕様 \(37 ページ\)](#)
- [物理仕様 \(37 ページ\)](#)
- [環境仕様 \(38 ページ\)](#)
- [電力仕様 \(39 ページ\)](#)
- [電源コードの仕様 \(41 ページ\)](#)

サーバの仕様

この章では、サーバーの物理仕様、環境仕様、および電源仕様を示します。

物理仕様

次の表に、サーバーの物理仕様を示します。

表 3: 物理仕様

説明	仕様
高さ	43.2 mm (1.7 インチ)
幅	429.0 mm (16.9 インチ)
奥行 (長さ)	サーバーのみ : 762 mm (30 インチ) サーバーとスライドラール : 800.1 mm (31.5 インチ)
重量	• 最大 : 19.25 kg (42.432 ポンド) • 最小 : 10.13 kg (22.32 ポンド)

環境仕様

次の表に、サーバーの環境要件および仕様を示します。

表 4: 環境仕様

説明	仕様
温度（動作時）	10°C ~ 35°C (50°F ~ 95°F) の乾球温度 900 m ごとに最高温度が 1°C (33.8°F) 低下。
温度、拡張動作	5 ~ 40°C (41 ~ 104°F) 、直射日光なし 900 m ごとに最高温度が 1°C (33.8°F) 低下。
非動作時温度（サーバが倉庫にあるか運送中の場合）	乾球温度 40 ~ 65°C (-40 ~ 149°F)
湿度（RH）（動作時）	10 ~ 90%、最大露点温度 28°C (82.4°F) 、非凝縮環境 -12°C (10.4°F) の露点より高い（湿気が多い）または 8% の相対湿度 最大露点 24°C (75.2°F) または最大相対湿度 90%
湿度（RH）（非動作時）	相対湿度 5 ~ 93%、結露しないこと、乾球温度 20 ~ 40°C の最大湿球温度は 28°C。
動作時高度	最大標高 3,050 m (10,006 フィート)
非動作時高度	標高 0 ~ 12,000 m (39,370 フィート)
最長動作期間	無制限
音響出力レベル ISO7779 に基づく A 特性音響出力レベル LwAd (Bels) を測定 73°F (23°C) で動作	5.5
騒音レベル ISO7779 に基づく A 特性音圧レベル LpAm (dBA) を測定 73°F (23°C) で動作	40

電力仕様



(注) サーバーでは、タイプやワット数の異なる電源装置を組み合わせて使用しないでください。両方の電源装置が同じである必要があります。

サポート対象の電源装置オプションの電源仕様を次に示します。

1050 W V2 DC 電源

ここでは、1050 W V2 DC 電源の仕様を示します。

パラメータ	仕様
入力コネクタ	Molex 42820
入力電圧範囲 (V rms)	-48
最大許容入力電圧範囲 (V rms)	-40 ~ -72
周波数範囲 (Hz)	該当なし
最大許容周波数範囲 (Hz)	該当なし
最大定格出力 (W)	1050
最大定格スタンバイ出力 (W)	36
公称入力電圧 (V rms)	-48
公称入力電流 (A rms)	24
公称入力電圧の最大入力 (W)	1154
公称入力電圧の最大入力 (VA)	1154
最大定格効率 (%) 80PLUS platinum 認定を取得するために必要な最小定格です。	91
最大定格力率 80PLUS platinum 認定を取得するために必要な最小定格です。	該当なし
最大突入電流 (ピーク A)	15

パラメータ	仕様
最大突入電流 (ms)	0.2
最大ライドスルー時間 これは、入力電圧のドロップアウト時に、時間出力電圧が 100% 負荷の状態規制の範囲内に留まる時間です。	5

1050 W AC 電源装置

この項では、各 1050 W の AC 電源の仕様を示します。

パラメータ	仕様
入力コネクタ	IEC320 C14
入力電圧範囲 (V rms)	100 ~ 240
最大許容入力電圧範囲 (V rms)	90 ~ 264
周波数範囲 (Hz)	50 ~ 60
最大許容周波数範囲 (Hz)	47 ~ 63
最大定格出力 (W) ローライン入力電圧 (100 ~ 127 V) で動作時の 800 W に制限されます。	1050
最大定格スタンバイ出力 (W)	36
公称入力電圧 (V rms)	230
公称入力電流 (A rms)	5.2
公称入力電圧の最大入力 (W)	1154
公称入力電圧の最大入力 (VA)	1190
最大定格効率 (%) 80PLUS platinum 認定を取得するために必要な最小定格です。	90
最大定格力率 80PLUS platinum 認定を取得するために必要な最小定格です。	0.97

パラメータ	仕様
最大突入電流（ピーク A）	15
最大突入電流（ms）	0.2
最大ライドスルー時間 入力電圧のドロップアウト時、時間出力電圧は 100% 負荷の状態規制の範囲内に留まります	12

電源コードの仕様

サーバーの各電源装置には、電源コードがあります。アプライアンスとの接続には、標準の電源コードまたはジャンパ電源コードを使用できます。ラック用の短い方のジャンパ電源コードは、必要に応じて標準の電源コードの代わりに使用できます。



(注) 使用できるのは、下の表に示す認定済みの電源コードまたはジャンパ電源コードだけです。

表 5: サポートされる電源コード

Description	長さ（フィート）	長さ（メートル）
CAB-48DC-40A-8AWG DC 電源コード、-48 VDC、40 A、8 AWG 3 線の 3 ソケット Mini-Fit コネクタ	11.7	3.5』
CAB-C13-C14-AC 電源コード、10 A、C13 ~ C14、埋め込み型コンセント	9.8	3.0
CAB-250V-10A-AR AC 電源コード、250 V、10 A アルゼンチン	8.2	2.5
CAB-C13-C14-2M-JP 電源コード、C13 ~ C14 日本 PSE マーク	6.6	2.0

CAB-9K10A-EU AC 電源コード、250 V、10 A、CEE 7/7 プラグ 欧州	8.2	2.5
CAB-250V-10A-IS AC 電源コード、SFS、250 V、10 A イスラエル	8.2	2.5
CAB-250V-10A-CN AC 電源コード、250 V、10 A 中華人民共和国	8.2	2.5
CAB-ACTW AC 電源コード、250 V、10 A、C13 EL302 台湾	7.5	2.3
CAB-C13-CBN AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、 C13 ~ C14	2.2	0.68
CAB-C13-C14-2M AC キャビネット ジャンパ電源コード、250 V、10 A、 C13 ~ C14	6.6	2.0
CAB-9K10A-AU AC 電源コード、250 V、10 A、3112 プラグ、 オーストラリア	8.2	2.5
CAB-N5K6A-NA AC 電源コード、200/240 V、6 A 北米	8.2	2.5
CAB-250V-10A-ID AC 電源コード、250 V、10 A インド	8.2	2.5
CAB-9K10A-SW AC 電源コード、250 V、10 A、MP232 プラグ スイス	8.2	2.5

CAB-250V-10A-BR AC 電源コード、250 V、10 A ブラジル	8.2	2.5
CAB-9K10A-UK AC 電源コード、250 V、10 A (13 A ヒューズ)、BS1363 プラグ 英国	8.2	2.5
CAB-9K12A-NA AC 電源コード、125 V、13 A、NEMA 5-15 プラグ 北米	8.2	2.5
CAB-AC-L620-C13 AC 電源コード、NEMA L6-20 - C13 コネクタ	6.6	2.0
CAB-9K10A-IT AC 電源コード、250 V、10 A、CEI 23-16/VII プラグ イタリア	8.2	2.5
CAB-C13-C14-3M-IN AC 電源コードジャンパ、C13 ~ C14 コネクタ インド	9.8	3.0
CAB-C13-C14-IN AC 電源コードジャンパ、C13 ~ C14 コネクタ インド	4.6	1.4
CAB-9K10A-KOR 電源コード、125 V AC、13 A、KSC8305 プラグ 韓国	6	1.8
CAB-JPN-3PIN 90 ~ 125 V AC、12 A、NEMA 5 ~ 15 プラグ 日本	—	2.4
R2XX-DMYMPWRCORD 電源コードなし。電源コードなしサーバーを選択するPIDオプションあり。	該当なし	該当なし

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。